公開2　　第２学年３組音楽科学習指導と評価の案

平成１７年１１月１４日（月）　授業者：宮上　真由美(2年3組教室)

1．題材名　　リズムにのってあそぼう　　教材名　「山のポルカ」

2．本時の目標　　2拍子の拍の流れに乗って楽器でリズム伴奏を加え、山のポルカを楽しく演奏することができる。(表現の技能)

3．本時の評価規準　　リズムに合った打楽器と歌や鍵盤ハーモニカの旋律をリズムに乗って楽しく演奏することができる。

4．児童の実態　　学ぶ意欲：身体表現が大好きで、歌にあわせて体で表現することに積極的に取り組むことができる。
学ぶ力：ペアをすぐに見つけて繰り返し練習するなど、よりよい表現を目指して学習できる。
学びえたか力：フレーズの終わりの休符を十分休むことができない。

5．本時の展開（　12/ 13 時）

| 過程 | 主　な　学　習　活　動 | 研究内容の具現のための手立て |
|---|---|---|
| つかむ / ふかめる / たしかめる | 1．レパートリー演奏<br>〇課題につながるレパートリー演奏をする。　「かっこう」<br>「いるかはざんぶらこ」<br>〇バッテリー奏をしながら、「山のポルカ」を歌う。<br>2．課題つかみ<br>〇パート別演奏をして、課題をつかむ。<br>（打楽器　・鍵盤ハーモニカ　・歌）<br>・みんなで合わせると楽しいかもしれないよ。<br>・グループで演奏してみたいな。<br>課題<br>がっきや歌で、山のポルカを楽しくがっそうしよう。<br>3．見通しをたてる　・コーナー学習で自信をつけて合奏したいな<br>4．前半練習<br>〇グループに分かれて、それぞれのパートを聴きあい、アドバイスし合いながらリズムに乗った合奏になるよう練習する。<br>・速くならないように、一人が手拍子を正しく打ちながらやってみよう。<br>・全体のバランスを考えて、楽器のたたき方をもう少しやさしくしてみよう。<br>・みんなの息を合わせるために、丸くなってみんなの顔を見ながらやってみよう。<br>・休符を正しい長さでしっかりとろう。<br>〇他のグループにも聴いてもらい自信をつける。<br>5．中間研究会<br>〇お互いの発表を聴きあい、良かったところや練習の工夫点を指摘して、交流しあう。<br>(取り入れたいところ)・みんなの目と呼吸が合っていた。<br>・自分以外の人をよく見ていたよ。<br>・ひざで2拍子を感じながら演奏していたよ。<br>・目で1・2・1・2・と拍子を取り合っていたよ。<br>6．後半練習<br>〇ほかのグループのよさを自分たちの演奏に取り入れる。<br>7、発表会<br>〇グループ発表をし、高まりを認め合う。<br>8、振り返り<br>・教えてくれたおかげで、上手になれたよ。落ち着いて演奏できたよ。<br>・グループ合奏は楽しいし、みんなと仲良くなったような気がするよ。<br>9．教師の評価 | ＜願いや憧れを課題意識に高める導入の工夫＞<br>・範唱奏や写真などから、「こんな演奏がしたい。」という願いや憧れを意識づける。(研究内容　Ⅲ―②)<br>・子どもの興味関心を高めるために、パートの組み合わせを変えて聴かせる。(研究内容　Ⅳ―①)<br>＜課題づかみを把握する指導＞<br>・本時の課題がつかめているかどうか、挙手により確認をする。(研究内容Ⅲ―②)<br>＜グループ活動を活性化する指導＞<br>・グループ学習により、励まし認め合いながら、課題に迫ることができるよう、支援する。(研究内容Ⅳ―①)<br>・一人ひとりの願いや考えをもとに、課題別・方法別等の学習形態を取り入れて活動する。(研究内容Ⅲ―③)<br>＜個のつまずきに応じた指導＞<br>・拍の流れに乗れない子どもには、入るタイミングを一緒に練習する。(研究内容Ⅳ―①)<br>＜中間研究会の充実＞<br>・聴く視点が本時の課題からずれないように配慮する。<br>・どの視点で聞いていたかを明確にさせて意見交流をする。(研究内容Ⅲ―④)<br>＜中間研究会での交流の高まり＞<br>・子どもの気づかない点は、巡視により発言できるように助言する。(研究内容Ⅳ―②)<br>＜中間研究会での成果を広げる指導＞<br>・互いに聴きあって評価や交流をし、仲間の表現のよさに気づき、自分の演奏に取り入れて高めあう。(研究内容Ⅳ―②)<br>＜本時の高まりを認め合う指導＞<br>・本時の課題から外れないよう配慮する。<br>・その子なりの頑張りを身と根価値づける。<br>＜本時の高まりを共有する指導＞<br>・全体の振り返りとともに、個人の高まりを見逃さず認める。(研究内容Ⅳ―②) |